

赤目中学校区教育目標
めざす児童・生徒像

一人ひとりが生き生きと輝く児童・生徒の育成
なかまと繋がりあって、学ぶ楽しさや自己有用感を育むことができる
児童・生徒

名張市立百合が丘小学校 学校長 宮崎 慎治

1 学校教育目標

あかるく なかよく たくましく

2 めざす学校像、児童・生徒像、教職員像、保護者・地域像

○学校像	「児童にわかりやすい授業を行う」「児童が安心して過ごせる」「児童と地域がつながる」学校
○児童・生徒像	・ 生き生きと学ぶ子（あかるく）・・・自分の考えを持ち、伝え合い、学び合える子 ・ 人を大切にする子（なかよく）・・・認め合い、なかまとつながり合える子 ・ チャレンジする子（たくましく）・・・心身共にたくましく、挑戦し続ける子
○教職員像	○ 教育専門職としての自覚を持ち、自ら研修に励み、指導力の向上と授業改善に努める教職員 ○ チームとして意識を持ち、苦楽を共有し、励ましあえる教職員 ○ 児童・保護者・地域住民との対話を深め、信頼関係を築いていこうとする教職員 ○ 働き方改革を意識し、勤務時間縮減に努める教職員
○保護者・地域像	○ 教職員との相互理解を深め、熱心に子育てをする保護者 ○ 学校との相互理解のもとに、パートナーとして連携・協働する地域

3 学校の現状

本年度の改善方策

○ 授業改善等に取り組んでいるが、全国学調やみえスタの平均正答率の着実な向上とまではいかず、学年によるばらつきがみられる。家庭学習の時間が短く、ゲームやスマホ等を使用する時間が長い。朝食を摂らずに登校してくる児童の割合が少しずつ増加傾向にある。 ○ 生活面や学習面での支援や合理的配慮、愛着形成が課題と考えられる児童が多くなっている。 ○ 令和5年度より人権教育総合推進地域事業を受け、教育的に不利な環境のもとにある児童の課題解決や低減に向けて取り組んでいる。 ○ 学習支援や野菜づくり、登下校の見守りなど、地域ぐるみで学校を支えていただいている。半面、学校からの地域貢献が課題である。 ○ 総勤務時間縮減のための更なる取組が必要である。	○ ペア・グループ学習、少人数授業、モジュールタイム、タブレットの活用等の取組をさらに進める。 ○ 生徒指導・人権同和教育・特別支援教育等の視点で子どもたちの課題を全教職員で共有すると共に、保護者・関係機関との連携をとりながら、チームで課題解決に努める。 ○ 人権事業の取組が2年目となる。本事業の取組を通して、児童理解が進むとともに、児童が安心して学べる学校・教室をめざしていく。 ○ 地域のボランティアと連携・協働しながら、地域で育ち地域で学ぶ子どもの姿を中心に据えながら学校運営協議会を進めていく。さらに学校が地域に貢献できる取組を模索し、児童が地域とのつながりを実感できるようにする。 ○ 校務や行事を厳選するとともに、定時退校日の取組を定着させて、時間外労働縮減に努める。
---	---

4 重点的な取組事項

番号	内 容	実 施 期 間				
		3	4	5	6	7
1	主体的・対話的で深い学びができる児童を育成する取組	○	○	○	○	
2	児童が安全で、なかまと共に安心できる居場所づくりの取組	○	○	○	○	

3	児童・保護者・地域とのつながりを深める取組	○	○	○	○	
---	-----------------------	---	---	---	---	--

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－１		主体的・対話的で深い学びができる児童を育成する取組	
A 今年度の成果目標			
○ 児童アンケートで「授業が楽しくわかりやすい」「家での学習ができている」が８０％以上になることをめざす。			
B 目標実現に向けた取組			
具体的な方策			
①	「百合が丘小学びの六か条」をベースに「めあての明示」「授業の流れの提示」「振り返り活動」を大切にしながら、児童が思いを聴き合い学び合えるわかりやすい授業づくりに取り組む。		
②	個に応じた少人数指導やT・T、タブレットの活用、「家庭学習の手引き」を工夫・実践し、一人ひとりの学習活動を保障し、確かな学力の定着を図る。		
③	教職員が授業公開を行い、指導力の向上と授業改善に取り組むと共に、学びの場である教室・学級の経営などについて、経験豊富な教師による日常的なOJTにより教師力の向上に努める。		

重点的な取組事項－2		児童が安全で、なかまと共に安心できる居場所づくりの取組	
A 今年度の成果目標			
○ 児童・保護者アンケートで「毎日学校へ行くのが楽しい」「子どもが安全で安心できる居場所づくりをしている」が90%以上になることをめざす。			
B 目標実現に向けた取組			
具体的な方策			
①	児童一人ひとりが家族・なかま・地域の人とのつながりを大切にし、お互いを知る・認め合う・支え合うなかで、安心できる関係を築き、安心できる学校・教室をつくる。		
②	互いが安全で安心して生活するためのきまりを大切にさせると共に、感染症やアレルギー対応等を適切に対処することで、学校内外の事故を未然に防ぐ。		
③	全ての児童に対する児童理解を図り、困難を感じている児童の発達に関わること、家庭に関すること、人間関係に関することなど、様々な視点からの分析をもとに指導・支援をすすめていく。		

重点的な取組事項－3		児童・保護者・地域とのつながりを深める取組	
A 今年度の成果目標			
○ 児童・保護者アンケートで「地域の人に感謝している」「子どもは地域の人とのつながりを大切にしている」が85%以上になることをめざす。			
B 目標実現に向けた取組			
具体的な方策			
①	学習支援、本の読み聞かせ、米・野菜・ぶどうづくり、登下校の見守り等のボランティアの方々と児童・教職員が「ありがとう」等の言葉を交わすなどすることにより、キャリア教育の視点でもある生き方や地域のつながりを大切にしていく。		
②	児童の家庭学習定着や保護者への情報発信をするために便りや手引き、HPを活発に活用するとともに、地域の行事等に積極的に参加するなど、学校からの地域貢献に取り組む。		
③	「あいさつ運動」「8・3運動（登下校の見守り）」などを通して、学校や家庭・地域で自らあ		

いさつできる児童を増やす。

6 学校における働き方改革の推進に向けた取組

上限時間に基づく目標

成果指標①	1人当たりの月平均時間外労働	30時間以下
	年360時間を超える時間外労働者数	0人
	月45時間を超える時間外労働者の延べ人数	0人

具体的な方策

- ・ 自主退勤時刻を設定し、時間外労働を削減する。
- ・ 出張が勤務時間を超えた場合は、直帰する。

休暇取得促進の目標

成果指標②	1人当たりの年間休暇取得日数	10日以上
-------	----------------	-------

具体的な方策

- ・ 一人一人が昨年度の年休取得日数を越える目標を掲げ実行する。
- ・ 計画的に年休を取得しやすい協力体制や補欠体制を整備する。

学校独自の取組

活動指標	設定した日の定時に退校できた職員の割合	70%以上
	放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合	80%以上

具体的な方策

- ・ 定時退校日を水曜日にするとともに、7割の職員が退校可能な時刻設定して実のある取組にする。
- ・ 会議の冒頭で終了時刻を明確に設定し、メリハリかつ簡潔な会議を実施する。